

令和6年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏名	所属	職名
	福島 聡	皮膚科	医師
グループ全員 *記入欄が不足する 場合は、別紙に記入	竹林 実	神経精神科	医師
	野坂 生郷	外来化学療法センター	医師
	一美 奈緒子	医療の質・安全管理部	公認心理士
	澤村 創一郎	皮膚科	医師
	金澤 早織	皮膚科	医師
	森 奈緒美	外来化学療法センター	看護師
	坂口 まみ	緩和ケアセンター	看護師
活動テーマ	がん患者のQOL向上を目指した福祉ネイル		
助成金額	500,000 円	助成金使用総額	500,000 円
【使用内訳】	消耗品 500,000 円 (内訳) ネイル材料・道具、文房具等		
【成果】	(※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)		
<p>アピアランスケアとして爪の変形に着目し、外来化学療法センターに通院中の患者27名に対し、福祉ネイルを実施した。</p> <p>菲薄化や変色、剥離などしているがん患者の爪に対し、割れた爪を補強したり、彩色しアートを施した。</p> <p>2週間ごとに3ヶ月間福祉ネイル介入を行い、さらにQOL、うつ、不安などの心理的影響について質問票による質問調査および面接調査を行った。</p> <p>対照群として、福祉ネイル介入には同意しないが、質問票による研究に同意する患者27名に対して質問調査および面接調査を行った。</p> <p>医師、心理士が、介入前後でのQOL尺度(DLQI)に改善があったかを評価するとともに、副次的に介入前後でのEORTC-QLQ-C30、FACT-G、抑うつ・不安尺度(HADS)、Nail Disorder Severity Index(NADSI)の改善の有無についても評価を行った結果、福祉ネイル介入を行った対照群についてQOL尺度改善の結果が得られ、有意性があることが明らかとなった。</p> <p>また、介入を行った患者からは、以下のような感想を得ている。</p> <p>「生まれて初めてネイルしてもらいました。ちょうど抗癌剤治療の副作用も辛い時期だったから、指先が明るくなると精神的にも全然違いました。ネイルをしてもらいながら色々話せたのもよかったです。治療は辛かったけど、こんな風にすれば日常生活を楽しめて爪にも良いのがいいですね。」</p>			

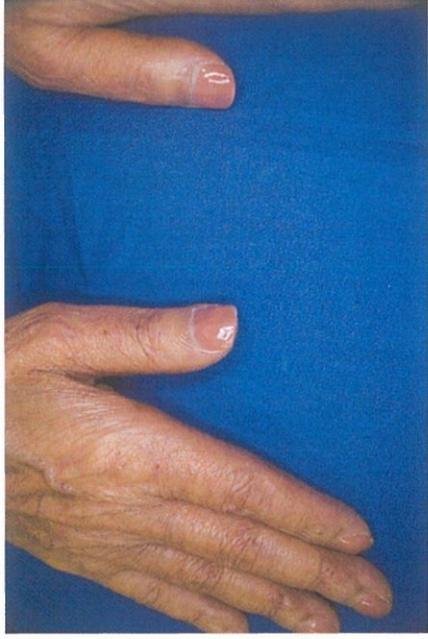
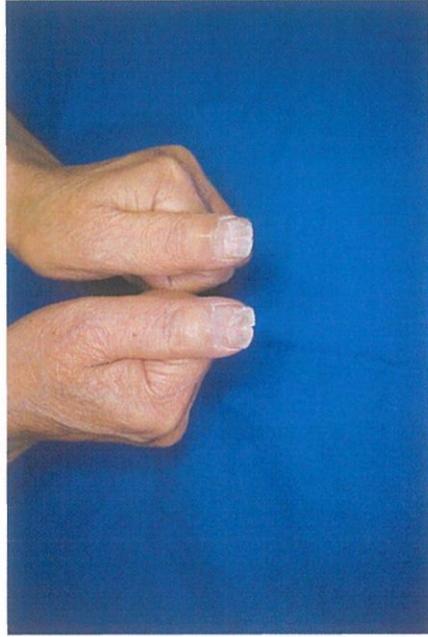
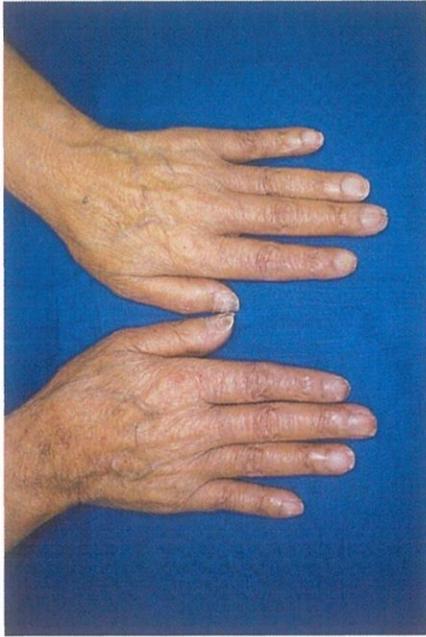
「体調が悪いと外出せずに家に居るので気分が沈みますが、『来週はネイルがあるから出かけよう』と思うと気分が上がります。今まで体験したことない『他人に処置していただく』というのは、とても心が休まりました。また、ゆっくりとリラックスした時間を過ごせて大変新鮮でした。ネイリストさんとの話も精神的に辛い時期だったので救われました。優しさが伝わってきました。」と多くの喜びの声が寄せられた。

身体的負担、精神的負担が大きいがん治療において、治療の継続や推進を目的とする医療者による支持療法としての福祉ネイルの可能性を示すことができた。

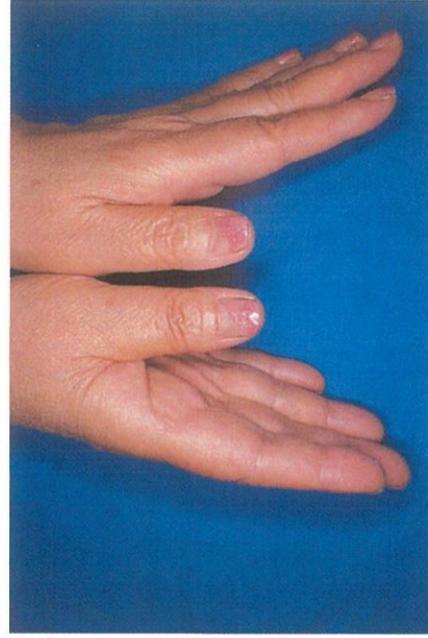
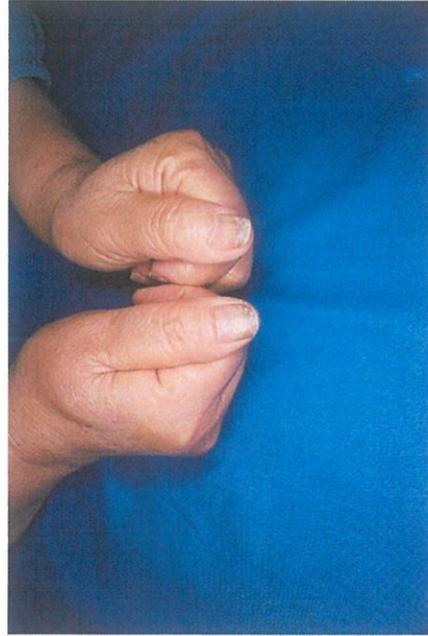


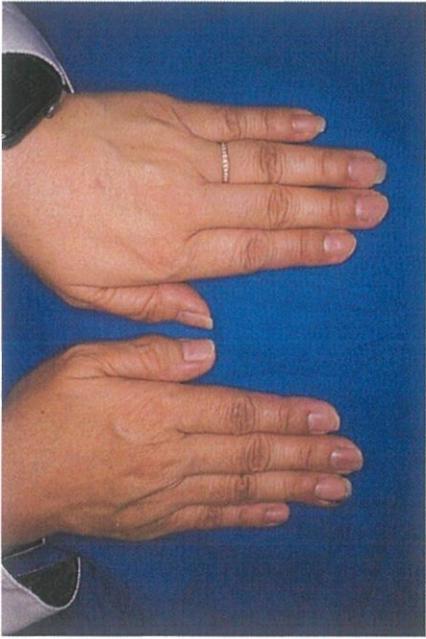
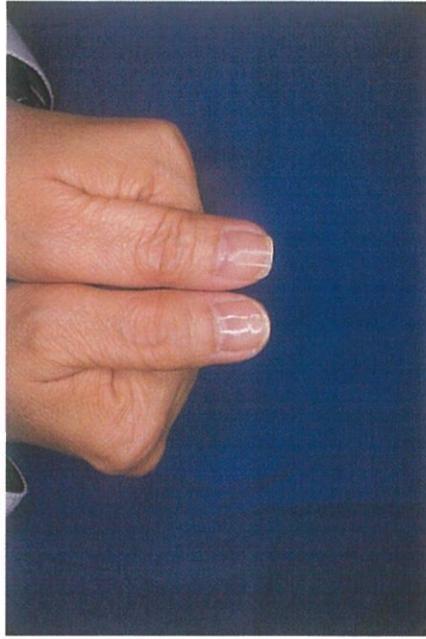
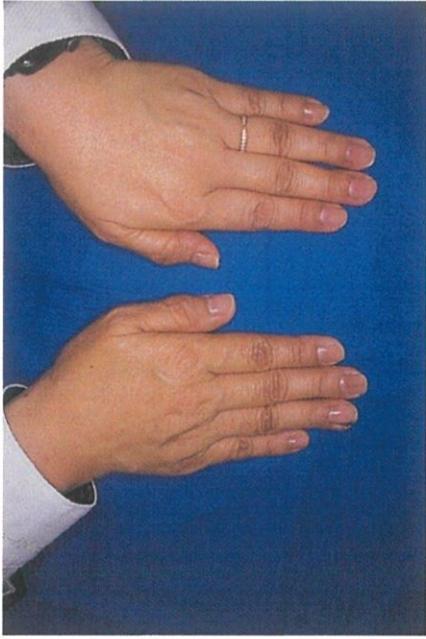
KN1

KN3

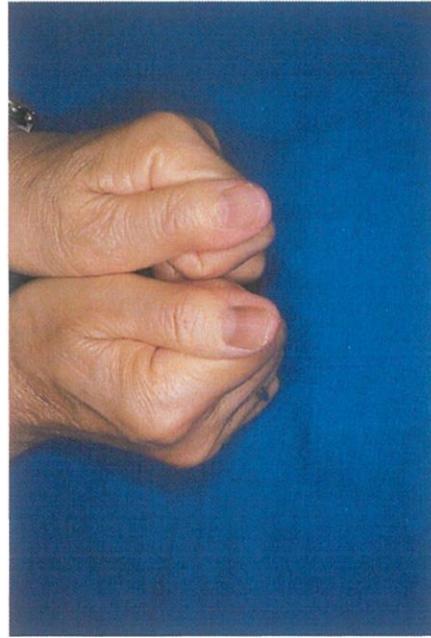


KN6

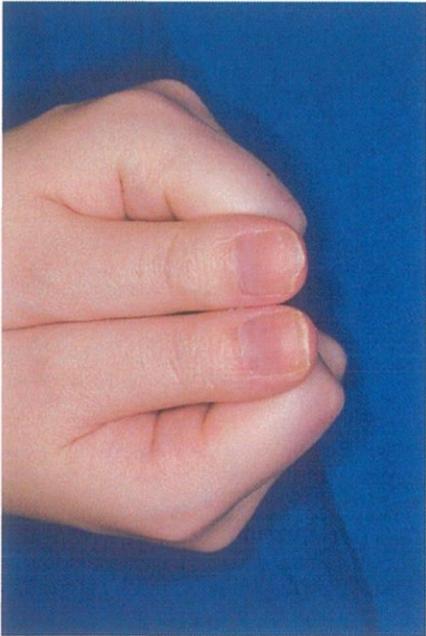
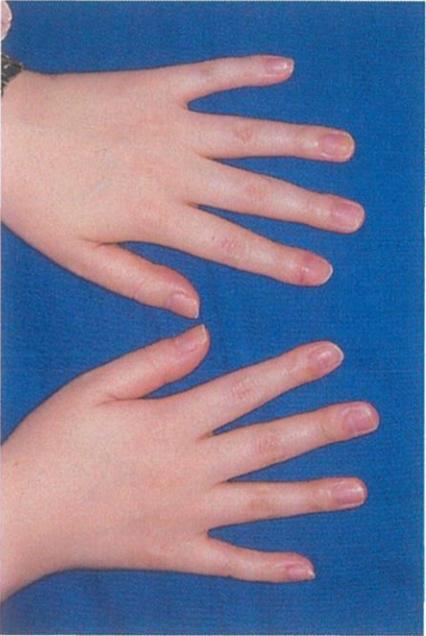
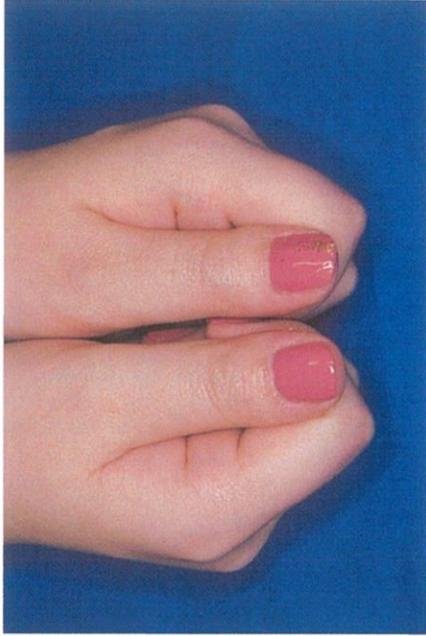
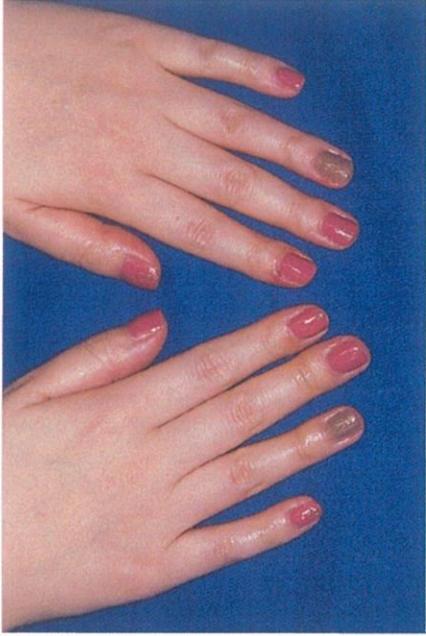




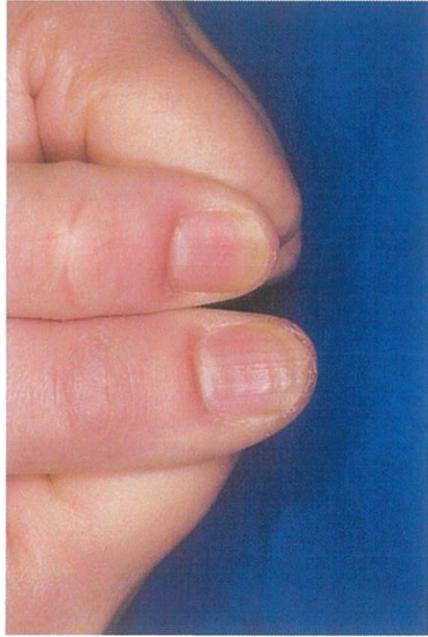
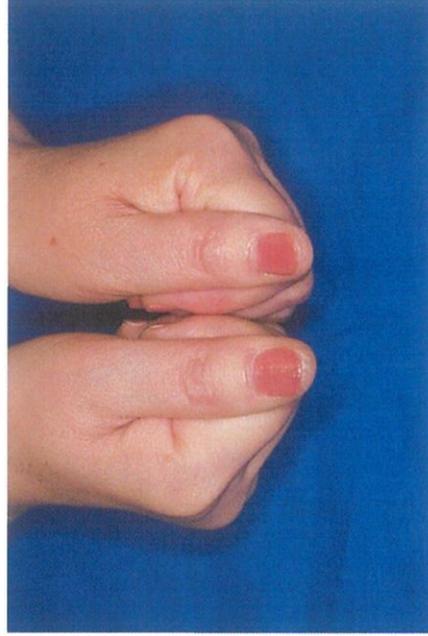
KN7



KN11



KN13



KN14

KN14

